

(仮称) こどもクリエイティブブランド
基本構想案

平成 22 年 3 月
静岡市

目 次

1	経緯	1
2	位置づけ	1
3	基本構想の背景とねらい	
	(1) 背景.....	3
	(2) ねらい.....	6
4	関連する既存事業	
	(1) 関連する事業との関わり.....	7
	(2) 既存及び計画中の都市福利事業との関連性.....	7
	(3) 市民ニーズの留意.....	8
5	本事業のコンセプト	
	(1) 基本的な考え方.....	9
	(2) 事業コンセプト.....	10
6	利用対象者についての考え方	
	(1) 基本的な考え方.....	11
7	今後の拡大利用	
	(1) 中・高校生への拡大.....	13
	(2) 中・高校生を取り込む期待.....	14
8	施設の建築条件	
	(1) 再開発ビルの概要.....	15
	(2) 事業対象階の概要.....	15
	(3) 施設の機能と展開.....	15
9	空間の展開と利用の考え方からの機能・配置	16
10	事業運営について	
	(1) 運営方式の基本的な考え方.....	18
	(2) (仮称) こどもクリエイティブブランドの 運営支援体系イメージ.....	18
11	施設運営について	
	(1) 施設運営についての基本的な考え方.....	18
	(2) 課題とする配慮事項.....	20
12	今後の整備スケジュール	21

1 経緯

本市は、高次な中枢都市機能に加えて、豊かな自然環境、長い歴史と培われた文化などの恵まれた地域資源を有し、第1次産業から3次産業までの多彩な産業が集積しています。

しかしながら、現在、少子高齢化の進展や、産業構造の転換など、本市を取り巻く環境変化が大きな潮流として押し寄せています。

このようななかで、地域の賑わいの喪失や産業の活力低下が懸念されており、ここで、地域に元気を取り戻し、産業に新たな活力を生み出すための新たな展開が求められております。

そうした視点から、地域の将来の担い手である子どもたちの育ちを支え、若者が安心して成長できる社会や多様なネットワークで力のある地域社会の実現を目指していくことが求められ、「将来の産業を支える人づくり」や「人と人との交流による賑わいづくり」といった方向性が欠かせないものと考えられます。

とりわけ、地域に視点を向ければ、清水地区の中心市街地活性化基本計画を支えるための、賑わい形成や拠点性のある機能の創出が必要とされ、それに向けての検討を進めていくことが求められています。

そこで、「未来への投資」として、今後の地域・産業の活性化に向けた人づくりと清水地区中心市街地の賑わいづくりのための施策を講じていくこととしました。地域や産業を支える将来の人づくりを通して、まちの賑わいの創出と人と地域のつながりや連携を高めていくという考えに立ち、その拠点でもあるプロジェクトを検討していこうとするものです。

本基本構想は、検討に当たって、これまでのようなハード優先の装置型ではなく、ソフトを充実させる人と人とのネットワークや事業展開を重視した方向性のもとに、そのプロジェクトの基本的な考えを定めるものです。

2 位置づけ

本基本構想は、平成21年3月に、国に認定された『静岡市中心市街地活性化計画 清水地区（以下「清水地区中活計画」といいます。）』の具体的な施策として実施していくために策定するものです。基本構想の検討の前提としては、以下の点に留意します。

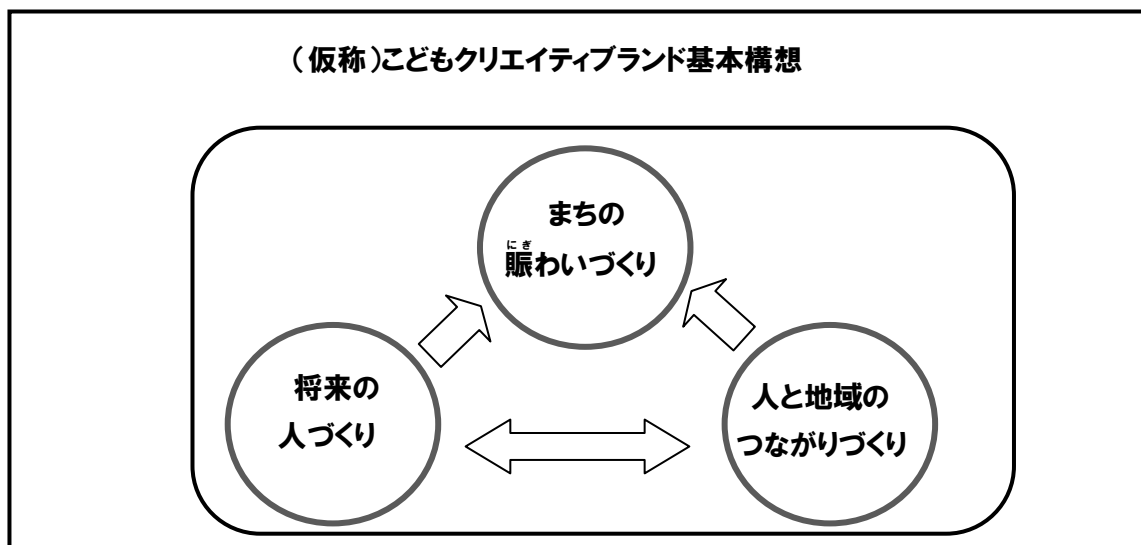
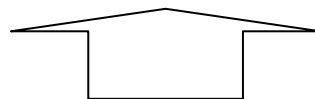
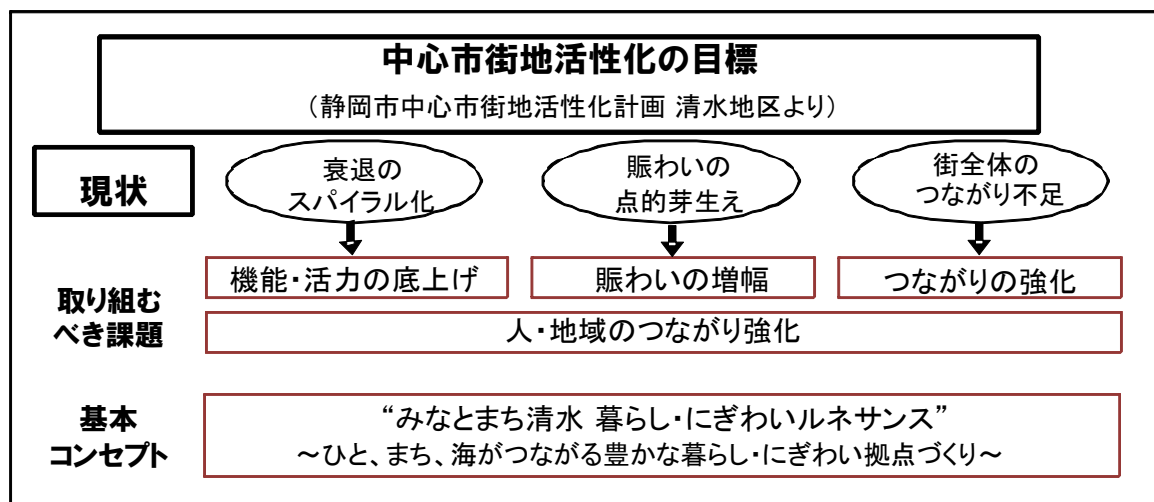
- (1) 本事業は「清水地区中活計画」の内、清水駅西第一地区市街地再開発事業の一環として整備することを目的としています。
- (2) 清水地区中心市街地は、賑わいの向上に資する文化的な機能の集積、および高質で魅力的な生活環境の向上に資する都市福利機能の充実を図る事が求められ

ており、それらの機能を具体的に実現するための検討を行います。

(3) 本基本構想では、将来の人づくりを通して、まちの賑わいの創出や人と地域のつながり連携を高める視点から、主として子どもたちのための参加体験型の展開を目指すものとし、(仮称) こどもクリエイティブブランド整備構想としてまとめていきます。

このための基本計画として、清水地区の中心市街地の活性化を図るとともに、周辺事業や計画との整合性を考慮し、また連携することにより、子どもを対象としつつも多世代の交流も可能となるよう効果的・効率的な方策を検討していきます。

清水地区中活計画の方向性と(仮称) こどもクリエイティブブランドとの連動を整理すると以下の流れになります。



3 基本構想の背景とねらい

経緯及び位置づけを踏まえ、清水駅西第一地区市街地再開発事業建築物（以下「再開発ビル」といいます。）のなかで、この再開発ビルのフロアを活用することにより、（仮称）こどもクリエイティブブランドを地域の新しい拠点として位置づけていきます。

そこで、地元をはじめとする地域のあらゆる方面に対して期待される機能の導入に向け、その背景とねらいについて、ここで整理します。

(1) 背景

本来、子どもたちは常に創造的（クリエイト）に学ぶことができます。それは子どもたちにとっては、自らの夢や希望を叶え、挑戦しながら大人になっていくための訓練といえます。

しかしながら今般の社会状況は、こうした子どもたちの創造の機会が少なくなっていることが指摘されています。学校での教科学習とは違う形で、地域住民との交流も含め、子どもたち自身の夢や希望の実現に向けて、創造の意欲を支援する場が求められています。

静岡県青少年実態調査（平成 21 年 2 月）

調査対象：静岡市内の小学生（5・6年生）500名、中学生・高校生 1,500名、保護者 700名を抽出。回収率 80.4%

- 中学生や高校生の 70%以上、保護者の 58.3%が生きていくうえで「やりがいがあることを見つけ実行する」ことを重視している。
- 「夢や目標の実現に向けて努力している」とする子どもたちは、年齢が上がるにつれ割合が低くなる傾向が見られる。
小学生 60.8%→中学生 54.1%→高校生 44.9%

キャリア教育ニーズ調査（平成 21 年 3 月）

経済産業省が実施した本市を含む全国 16 地区の小学校・中学校・高等学校長向けアンケート調査

調査対象：学校調査…全国 16 地区調査地域の全小学校、中学校、高等学校長あて 2,218 校分。回収率 37.5%

1 「キャリア教育はどのような教育方略によって効果的になるか」

調査地区全体では、

- 「体験することを適宜取り入れる」の回答は小学校が最も多く 83.9%
- 「教科での学びを意識した活動」の回答は小学校が最も多く 42.9%
- 「自分で調べることを取り入れる」の回答は中学が最も多く 56.3%
- 「外部の社会人講師による講義」の回答は高等学校が最も多く 71.6%

2 「学校以外の各種団体（NPO）や人との連携」

- 調査地区全体の中学校では、「地元の商工会、青年会議所などの公的機関との連携」を「現在行っている」が 22.3%、「今後取り組みたい」が 41.0%」
- 静岡市では連携の取り組みを「現在行っている」が 28.6%、「今後取り組みたい」が 34.3%」

3 小学校・中学校・高等学校におけるキャリア教育の実態と学校の意識調査において、質問項目に対する静岡市内の学校長の自由記述から、主な意見を以下のように整理しました。

Q1：キャリア教育を推進について

- 地域や各種団体との協力や連携、理解が必要である。
- 学校現場に時間的余裕がないため、全体計画を作成することが必要。時間数や人材の確保が難しい。
- 職場実習の協力企業の要請など負担となっている。受け入れ体制づくり、支援が必要である。

Q2：今後のキャリア教育について

- 地域・民間と連携しながら「出会い」を大切に、関わりを持つことが基本である。
- 様々な分野で活躍する人との交流活動を基本とすべきである。
- 学校現場にむりのないように行っていくことが必要である。
- 公的機関が民間企業に依頼し、企業体験を受け入れてくれるような体制づくり、援助を行ってほしい。

一方では、今、世界は米国のサブプライムローン問題に端を発した100年に1度と言われる経済危機の渦中にあり、本市経済も決して例外ではありません。静岡県は輸出依存の高い加工組立型産業の集積が厚いという産業特性もあり、これまでは愛知県と並んで全国の中でも景況感が高い地域と言われてきました。

しかしながら、かつて経験したことのないような在庫調整、生産調整が、自動車関連をはじめとする日本のリーディング産業で行われ、ついには雇用調整にまで発展するような事態になっています。

企業経営にとって、人件費は最大のコストですが、最も重要な経営資源でもあるとも言われています。地域産業を支える様々な経営において、経済の仕組みの再構築、ポジション・チェンジ（立ち位置の変更）を可能としていくためには、機械設備でも金でもなく、地域経済を支える人の力が不可欠であると考えます。

いかに人に能力発揮させるか、人の活かし方が、今後の本市の産業基盤のキーワードでもあり、未来への投資としての「次世代の創造人の育成」が、今、求められています。

1万人対象の市民意識調査

(第2次静岡市総合計策策定に向けた市民意識調査) (平成20年12月)
調査対象: 静岡市在住の満18歳以上の男女10,000人、有効回収率51.2%

「これからの成長産業といわれる付加価値の高い創造型産業のまちを実現するために、市や企業などが最も重点的に取り組むべきことは」

- いずれの年代でも「若者や団塊の世代などの就業支援や雇用機会の充実」が高い。
- 10歳代、20歳代では「創作活動を行い起業を志すクリエイターの支援」と「放送、映像、音楽などのコンテンツ関連産業の振興」が、それぞれ1～2割と、他の年代に比べやや高くなっている。

※クリエイター: 創造的な仕事をする人、作家のこと。

コンテンツ関連産業: 放送・映画・音楽・漫画・アニメ・ゲームなどのような知的生産物について、その制作・管理・提供に関わるビジネスのこと。

県内中小製造業における人材育成・確保に関する実態調査 (平成19年3月)

財団法人しずおか産業創造機構がアンケート・ヒヤリング調査により実施
調査対象: 静岡県内に所在する中堅及び中小製造業を無作為に1,000社抽出
有効回収率31.9%、ヒヤリング調査は5社に対し実施

1 アンケート調査結果

(1) 「今最も重視している経営課題」

- 「優秀な人材の確保・育成」と「技術力の強化」を挙げる企業が57.7%と最も多い。
- (2) 「組織としての取組み」
 - 「経営理念に人材育成の必要性を掲げている」とする企業が41.4%、「中長期の経営計画の中で人材育成に関する目標を設定している」とする企業が32.3%であった。

2 ヒヤリング調査結果

「人材育成・人材確保のために求められる施策」に対する考察

- 企業と求職者とがより多くの接点を持つための“場の提供”が必要。
- 「ものづくり県・静岡」を県内外にアピールすることで、全国から優秀な技術者・技能者が集まる仕掛け作りが重要。
- 小さい頃から製造業に触れる機会を増やすことで、ものづくりに対する興味・関心を醸成じょうせいすることも、将来の担い手育成に不可欠な施策。
- 人材育成手法の情報提供を進めていくことが必要。

2010年静岡県内主要企業 経営者アンケート調査 (平成21年11月)

調査対象: 静岡県内の主要企業経営者444名、業種: 製造業60%、非製造業40%
地域: 東部23%、中部47%、西部30%、回答率: 38.7%

「将来にわたる持続的な発展のために、今年はどのような方策を実施するのか」

- 製造業、非製造業ともの、「人材の確保・育成」を挙げた経営者が最も多かった。(製造業 66%、非製造業 63%)

また、平成 20 年 3 月には、清水商工会議所、清水区自治会連合会、清水農業協同組合、清水漁業協同組合、静岡市清水商店街連盟及び清水駅前商店振興会などから、清水駅西第一地区市街地再開発ビル内に相応しい規模と魅力ある公共施設の設置に関する要望が、静岡市長及び静岡市議会議長に出されています。

このような状況のもと、地域の期待される機能を、地域のなかで実現できる新しい拠点を設けていくことが必要であると考えます。

本事業を、子どもたちに、より創造的な力と感性を高める経験の場として位置づけ、地域の次世代を担う人材育成の拠点として推進していきます。

さらに、本事業の目的とともに、多世代交流、市民交流、施設交流及び地域交流が相乗的に活性効果をもたらすための核拠点に (仮称)こどもクリエイティブランドを位置づけて、事業活動を展開していくことが求められます。

(2) ねらい

背景を踏まえ、本基本構想がめざすべき方向性、ねらいを次のように整理します。

(ねらい)

- ① 子どもたちの夢と希望を応援することにより、人と地域のつながりを強める。
- ② 育み生み出された新しい人や文化により、清水区を中心とする持続ある地域の活力としていく。
- ③ 活動を支援する機会と場(空間)を提供する。

【基本フレーム】

モノづくり体験や将来の夢探し、希望づくりの機会を提供する参加体験型の拠点づくり

【実現に向けた課題】

- 既存の子育て支援、子ども育成事業との競合、重複しない人づくり機能
- 地域や産業などへの波及効果と賑わいの創出

【想定する機能】

- 子どもによる産業・文化の創造・発信支援機能
- 次世代人材育成支援機能(産業界や市民との協働等)
- 地域交流促進機能

4 関連する既存事業

(1) 関連する事業との関わり

本基本構想の策定に当たっては、関連するさまざまな事業との関係を整理する必要があります。

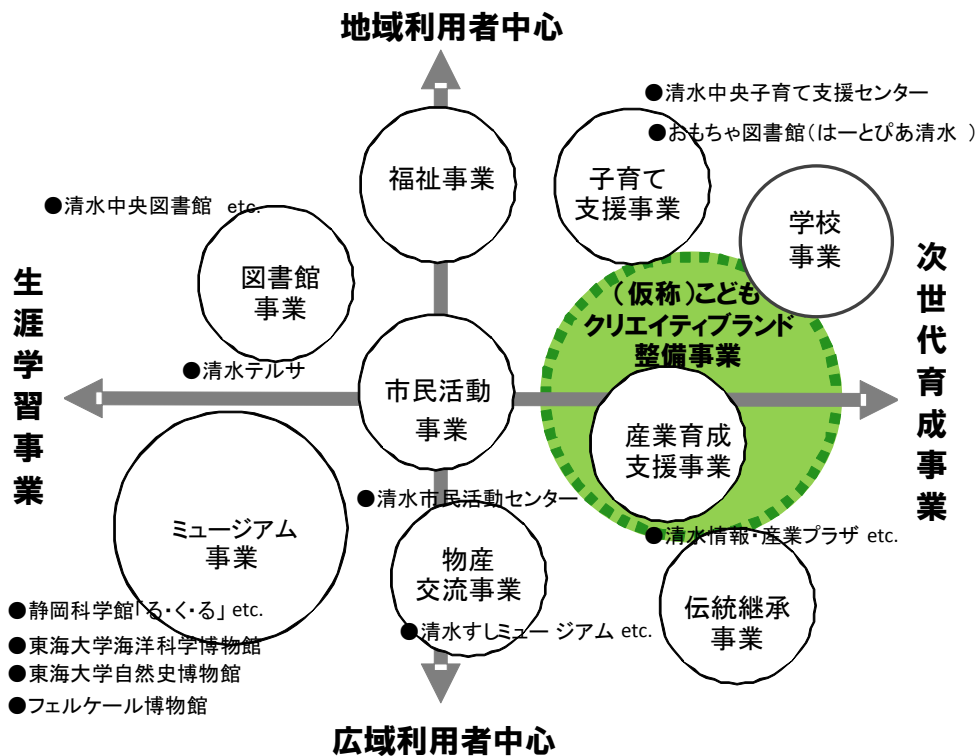
そのため、既存の施設とのすみ分けと連携を前提とした、総合的な視点のもとに、施設の活動領域を検討します。検討に当たっては、既存及び他の計画事業と相乗作用をつくり出すとともに、ニーズの把握と反映や付加する機能の検討などが求められます。

(2) 既存及び計画中の都市福利事業との関連性

既存の子育て支援事業、産業育成支援事業などの都市福利事業を対象とする利用者の地域的な広がり、その施設の設置目的に沿ってそれぞれの事業の性格を分類すると、次ページの図のように捉えることができます。

本事業を位置づけるにあたっては、これら先行事業との重複は避けつつも、機能の関連によって相乗効果をもたらし、効率的な運営を期待できる位置から推進することが求められます。

また、近接する連携事業としては、学校教育を基本連携として捉え、利用者の地域的な広がり、清水区を中心とする地域利用者を中心に捉えつつも、運営において、より連携軸の強化や事業内容の向上などによって、静岡市全体、さらには周辺自治体・市民の要望にも応える方向を目指していきます。



(3) 市民ニーズの留意

再開発ビルが駅前に立地するという利便性から、潜在的な社会ニーズである児童館や保育施設などの諸機能、また高校生などが“集える場所づくり”などの要望があります。

しかし、立地環境や法的な条件からは、そのまま導入するという方法ではなく、基本構想のなかでは、産業やものづくりといった分野に着目し、次世代育成面を強調しつつ、これに子育て支援機能を付加することにより、福祉事業との連携の足がかりとしていくことを検討していきます。

このため、子育て支援・市民活動・物産交流事業など地域ニーズの詳細な検討を経て構築するものとします。

5 本事業のコンセプト

(1) 基本的な考え方

前項までの検討から、本事業の基本的な考え方整理します。

事業は、子どもたちにとっての第一第二の場である家庭や学校だけでは得られない、また子どもたちにとっても広く地域と接することができる機会＝【第三の場】としての性格をもつものとして考えていきます。

地域や仕事の擬似的な体験から創造的な体験を得る機会を提供することにより、子どもたち自身が自分の将来を見つめ、自主性と感性豊かな人として成長していくことを期待します。そのような継続した事業活動を実施することにより、これからの時代を担い、地域社会の新たな活力を^{つちか}培う人づくりの場としての機能に高めていくことが求められます。



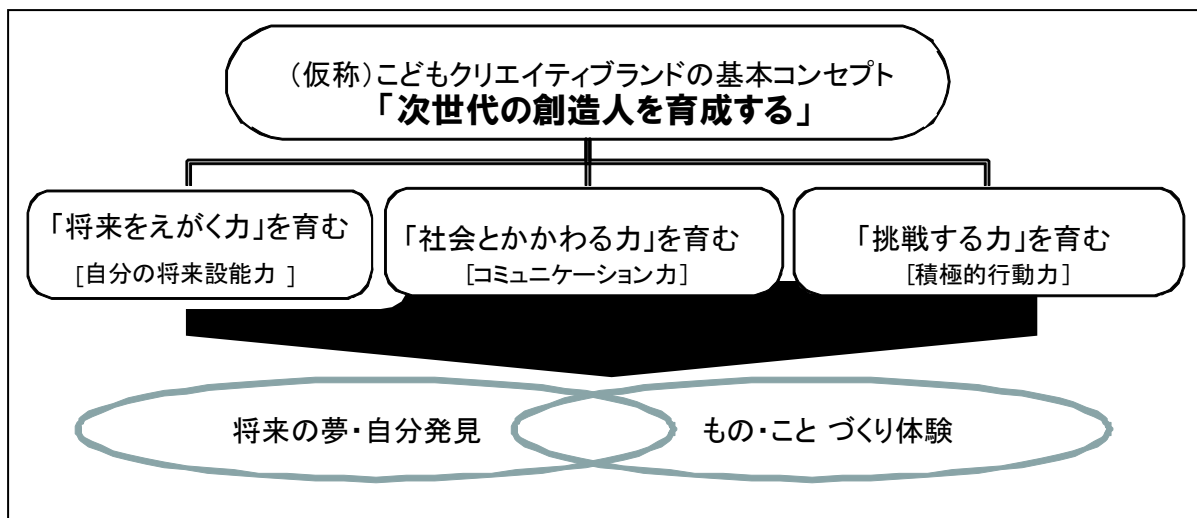
このような基本的な考え方に沿って、全体の方向性（＝コンセプト）をまとめ、次ページのように整理します。

また、そのコンセプトのもとに参加体験型の施設としていくためには、子どもたちが新しい社会の担い手として基礎力を養い、自由な発想や柔軟な感性を身につける参加体験型活動の場づくりといった考え方のもとに拠点性を保持する必要があります。

主眼を産業やものづくりからの次世代育成機能とし、そこからの活動を押し広げていくことを念頭に検討することとします。

(2) 事業コンセプト

(仮称)こどもクリエイティブブランド事業の基本的な考え方
子どものためのサードプレイス (※)
※サードプレイス(Third place): 家と学校を結ぶ日常生活の中間地帯にある、友だち・仲間づくりや集い合う場所。



(参加体験型活動の考え方)
子どもたちが新しい社会の担い手として基礎力を養い
自由な発想や柔軟な感性を身につける参加体験型活動の場づくり

(参加体験型活動の基本)

子どもと地域の未来を育てる夢ファクトリー
～子どもたちの夢と元気をまちの活力へつなぐ拠点～

6 利用対象についての考え方

(1) 基本的な考え方

利用者の想定に当たっては、既存及び周辺の関連施設との連携を前提として、本施設での活動テーマの熟度を高め、効果的な運営を図る必要があります。

そのため当面は、体験のテーマや主として利用する子どもたちを、社会的なニーズが高く、比較的到他施設からの経験値も得られやすい幼稚園及び保育園の年長児から小学生の年代を主な対象と捉えます。中高生においては運営側への積極的な関与を促すとともに、自発学習・出前学習などの場として、利用できるよう配慮するものとします。

将来計画としては、運営経験の深まりと、社会的なニーズの把握により、順次他施設との連携を図りつつ、周辺世代に拡大していくことを検討していきます。

(考え方の基本的な視点)

利用対象の主体は、子ども

とりわけ、幼稚園及び保育園の年長児から小学生の年代とします。



- 子どもたち、とりわけ低年齢層に対して、「生きること」「学ぶこと」「働くこと」の気づきやきっかけづくりの場を提供することで、それらに対する理解を深めることが必要という社会的要請に応える。
- 具体的には、小学生をはじめとする低年齢層を主たる利用者に、“ごっこ遊び”や創作・工作体験等を通して、仕事や共同作業、社会に参加することの意義や気づきを促し、ものづくりや働く楽しさに興味をいざくきっかけを提供する。
- 行政、関係機関、産業界や地域の人々が低年齢層利用者の将来の夢と可能性を育み支え、学校での「教科教育」、科学館等での「科学教育」に続く「キャリア教育（仕事やものづくり）」を意識し、継続したプログラム開発を視野に入れた活動拠点とする。

- 当面、主たる利用者の設定を未就学児から小学校高学年とする。
中でも未就学児から小学校低学年は親を含む保護者の指導の範囲とし、高度なプログラムについては施設指導員などがあたる。同時に広く社会に人材（退職世代を含む地域人材）を求め実施する。
- 中学生・高校生のキャリア教育（※）支援関連事業やボランティア、ジュニアリーダーなどの参画も視野に入れ、地域の子どもたち全世代を対象とした成長産業・まちづくりの担い手づくりを志向していく。

対象	未就学(年長)児	小学生		
		低学年	中学年	高学年
活動プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・「将来をえがく力」を育む ・「社会とかかわる力」を育む ・「挑戦する力」を育む 	<ul style="list-style-type: none"> ● ごっこ遊びプログラム ● 校外授業団体対応プログラム 		
体験プログラム例		<ul style="list-style-type: none"> ● ごっこ玩具遊び・体験と交流 ● ファシリテーター（※）による集団ゲーム等 ● モノづくりワークショップ等 		
ファシリテーター（※）	親・ボランティア・保育士等	企業・ものづくり人材・スタッフ、学生 ジュニアリーダー等		

※キャリア教育とは人間の生き方の一部として『学ぶこと』『働くこと』『生きること』を総合的に学ぶ教育を示します。

※ファシリテーターの役割 体験学習において、進行や助言などを行いスムーズな学習ができるよう運営する人

7 今後の拡大利用

(1) 中・高校生への拡大

現在求められているキャリア教育においては、学校教育ばかりではなく地域（市民・企業・NPOなど）との連携が重要な礎となっており、地域に対する期待が大きいといえます。

静岡市においてもキャリア教育はすでに中学校・高等学校で実施されていますが、本施設においては、中・高生の利用を将来の課題として視野に入れるとともに、隣接する他の施設や商店街などの場とも連携することを想定します。その際には本施設の位置づけとして、以下の事業性格も加味されるものとします。

(拡大する中・高校生への具体的プログラム例)

対象	中学生	高校生
教育プログラム	企業・職能団体等との共同による自主参加型の 職場・仕事模擬体験・実体験プログラム	
体験 プログラム例	①子どもや若者の感性・発想力に基づく商品・ビジネスの共同開発プロジェクト ②企業人や専門家による職業体験講座・セミナー ③商店街でのチャレンジショップ(※1)、清水版“ミニ・ミュンヘン”(※2)等社会実 習の企画・運営	
ファシリテータ	企業・団体の担当者やOB等の専門協力者	

※1: 地域商店等と連携して実施される、子どもたちによる商品の生産・販売など一連の流れを通して地域理解を促すイベント。

※2 : ドイツ・ミュンヘン市で毎年に行われる職業体験型イベント。都市に見立てた会場では、市政・銀行・警察を始め、様々な職域を子どもたちが体験・運営する。日本ではミニ佐倉・ミニ立川など各所での実施例がある。



(仮称) こどもクリエイティブブランドの延長線上の育成事業の可能性

(次ページへ)

(2) 中・高生を取り込む期待

低年齢層だけでなく、中・高校生への拡大、それらの年齢層を対象として事業を実施していくことで、社会参画意識、地域や市民団体との協働の場面の創出、商店街やビジネスとの連携によるステップアップの機会等につながるなど、育成事業の可能性が広がることが期待されます。

3つの側面から整理すると、次のような期待が考えられます。

●社会参画の保証

こどもクリエイティブブランドをジュニア・リーダー等で事業サポートする、ボランティア活動での社会参加

●地域や市民団体との協働

こどもクリエイティブブランドで芽生えた興味をフォローし、よりステップアップしたキャリア教育へ、児童たちの意識をつなぐ地域イベントや展示会等の開催

- (例) ・子どもクリエイティブブランドを起点とした、産業観光ルートづくり、工場見学等
アクティビティの予約受付サービス等
・市内での清水版“ミニ・ミュンヘン”や“子ども技能五輪”等イベントの定期開催

●商店街との連携

地元企業・産業界等と共同して、子どもたちが商品開発やマーケティング協力など、実際のビジネス体験ができる“子ども起業体験施設”やチャレンジ・ショップ等事業の市内遊休空間での展開

8 施設の建築条件

本事業を実施予定する場所の条件のあらましを以下に示します。

(1) 再開発ビルの概要

- 位置：静岡市清水区辻1丁目（清水駅西口第一地区市街地再開発事業施設内）
 - 地域・地区：地区計画(第1都心商業地区)・商業地域・準防火地域・高度利用地区
 - 建築敷地面積：約3,643㎡
 - 建築面積：約2,900㎡
 - 構造：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
 - 階数：地上25階、地下1階
 - 用途：商業、業務、住宅、駐車場
- ※数字は全て概数・計画数値

(2) 事業対象階の概要

- 位置：上記の内3階及び4階（合計約1,800㎡）を対象階とする。
 - 各階の面積等：
 - (3階) 1,104㎡のうち住宅施設共用部分57㎡、施設共用110㎡、全体共用37㎡を除く900㎡を業務対象とする。事業対象ではないが、専用バルコニー(200㎡)
 - (4階) 1,099㎡のうち住宅施設共用部分57㎡、施設共用105㎡、全体共用37㎡を除く900㎡を対象とする。
 - 出入動線：エレベータ、エスカレータ及び階段
- ※数字は全て概数・計画数値

(3) 施設の機能と展開

(仮称) こどもクリエイティブランド	
基本コンセプト	「こどものためのサードプレイス」 ～次世代の創造人を育成する～
対象者	子ども(幼稚園及び保育園の年長児～小学生)を主体とし 中学・高校生への利用拡大も指向する。
機能	<ul style="list-style-type: none"> ①仕事ごっこ体験的機能 ②実習工房的機能 ③多目的な交流機能 ④企画運営的機能
空間構成の展開と利用の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ①年齢層別フロア分け (3階と4階の機能のある程度の年齢層で区分する。) ②一体型と機能居室空間の確保 (一体的に確保する空間と居室型に仕切る空間を配置する。) ③子どもたちが一緒に楽しくものづくりと仕事体験する遊び・学び空間づくり ④これからの社会の担い手の基礎力を育てる遊び・学び空間づくり

9 空間の展開と利用の考え方からの機能・配置

(仮称) こどもクリエイティブランドとして整備するに当たっては、基本コンセプトのもと「ものづくりと仕事体験する遊び・学びの空間」と「基礎力を育む遊び・学びの空間」の機能を配置していくこととします。

そこでは、装置型のハード整備を主体とする方向ではなく、企画運営型のソフト事業を主体とする整備の方向性のなかで検討していくものとします。

運営していくためには、各界各層とのネットワークの構築による多くの人々との関わりが重要となってきます。

次に、2つの空間の機能と配置を以下のように想定します。

① 子どもたちが一緒に楽しくものづくりと仕事体験する遊び・学び空間

子どもたちが一緒になって“ごっこ遊び”や“真似ごと遊び”をして交流することをメイン体験とする、仕事や社会体験に対する「きっかけ・芽生え・気づき」を目的とする体験空間。

仕事ごっこ体験空間

ふぁくとりー・ タウンエリア

- ごっこ遊び/体験を通して仕事をイメージするとともに、多世代が関わりあい、相互に交流をを図る場
- 地域の特色ある産業や地域づくり等をテーマとする参加体験のプログラムの提供の場

交流空間

ふれあい ラウンジ

- 保護者(親・シルバーを含む。)など多世代の人々に開放される交流とふれあいの場

② これからの社会の担い手の基礎力を育む遊び・学びの空間

様々な産業界、NPOや市民などと連携し交流するなかで利用者の継続活動を支える空間。

実習工房空間

子ども アトリエ

- 木工からデジタルワークまで、創作遊びや手作り工作で、子どもたちの自由な発想や感性を刺激する自由工房

自習・学習空間

視聴覚 ブース

- 視聴覚教材や制作したデジタル作品鑑賞などのための個人単位で学び楽しむ場

図書 コーナー

- 仕事や職業についての児童書・絵本などを集積し、親やボランティアなどを通して仕事や地域・社会などへの関心を促す場

多目的空間

多目的室

- 他施設や企業、地域などからの出前講座の受け入れ・交流・展示・発表、研修などの場

10 事業運営について

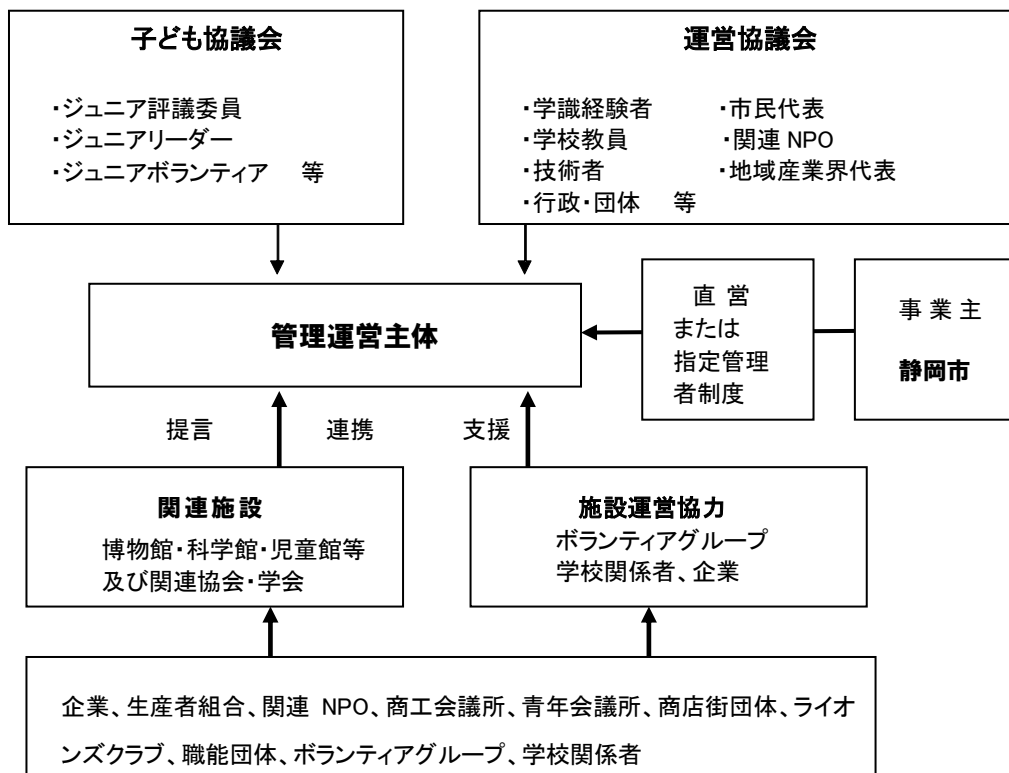
(1) 運営方式の基本的な考え方

運営の方式は運営管理主体を直営ないし指定管理者制度を前提に検討を行っていきます。

また、開館に先立って多様な参画のもとに、管理運営を管理運営主体に全てを委ねるのではなく、広範な協力組織・サポーター組織を含めて検討していきます。詳細な運営方式を確定するに当たっては、以下の諸事項に留意していきます。

- ソフト事業主体の施設目的にかなった運営主体・運営方式・運営形態の重視。
- 市民の社会参加（ボランティア等）に対して開かれ、かつ施設目的に即した活動の柔軟な受け入れ。
- ハード（装置・機器・設備等）重視からソフト（コンテンツ・プログラム等の事業展開型）重視。
- 一方向情報発信型から双方向的交流型へ。
- 子どもが参加し、時代・世代とともに育っていく施設運営づくり。
- 市民参加による運営によって大人も童心をもって応援できる体制づくり。

(2) (仮称) こどもクリエイティブブランドの運営支援体系イメージ



11 施設運営について

(1) 施設運営についての基本的な考え方

運営プログラムは準備期間から詳細検討を行い、より魅力のあるものとします。

また、継続運営によって、常に検証と評価（モニタリング）を実施し、より効果的で魅力のある運営を目指します。計画及び実施にあたっては特に以下の点に留意して取り組むものとします。

年齢に応じてステップアップするプログラムの展開

- 子どもの感情・知識・体格など発達段階に応じた活動展開。
- 発達段階に応じて順次ステップアップしていくことを目指し、自発的探究心が育つプログラム計画づくり。
- 施設利用の子どもが大人や高齢者になっても、保護者役やプレイリーダーとして、活動に参加できる循環型の仕組みづくり。
- 大学、専門学校などを含め、専門知識や技術を備えた学生や一般社会人、高齢者のボランティア活動としての受け入れ。

利用者の行動にあわせた効率的運営

利用者は個人・家族・学校団体など様々であると予想されます。それぞれの行動や特性に応じた利用の形を検討するとともに、柔軟な運営を目指します。

以下に示す利用集中時間帯を念頭に、効率的な運営要員の配置や活動プログラムの編成を検討します。

- 未就学児グループ・家族 ➡ 終日
- 未就学幼稚園及び保育園の年長児・遠足等の団体受け入れ ➡ 午前中
- 小学生の体験・学習などの受け入れ ➡ 午前または午後
- 小・中学生の個人及びグループ ➡ 午後（学校休日は終日）
- 中・高校生以上の個人利用 ➡ 午後以降（休日は終日）

(2) 課題とする配慮事項

●子どもたちへの安全配慮

エレベータを来館流入動線とする4階部は、未就学児の利用空間とすることで、目的外利用を抑制し、子どもたちへの安全に配慮する運営方法の確立することが求められます。

●フリーアクセス空間の活用

3階部が床下のフリーアクセス空間が確保でき、電気・通信設備等の活用が想定される就学児の利用空間とすることとで、経済的かつ効率的な運営を図ることを検討していきます。

●運営面での合理性

就学児の施設利用の主時間帯は、未就学児と異なることから、開閉館時間をフロア単位で分けることで合理的な運営を図ることを検討していきます。

- ・例えば、平日の場合、未就学児は夕方以降の利用率は激減し、対して就学児は夕方以降の利用率が高くなることが考えられる。
- ・再開発ビル1・2階店舗の営業時間に準拠させる部分と、夕方以降は閉館とする部分とをフロアによって区分して運営するなどを検討する。

●利用者負担の配慮

施設利用全体としての利用者負担は想定せず、個別の事業ごとに参加に必要な材料費などの負担を求めていく方向で検討していきます。

12 今後の整備スケジュール

今後の事業スケジュールについて、そのあらましを以下の表に示します。

年度 内容	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
主な事業	基本・実施設計策定 運営計画検討	運営計画策定 手続き関係	開館・運営開始
事業の概要	【設計関係着手】 ・基本構想具現化に向けて設計着手 ・本体設計との調整 ・実施設計公表 【運営計画検討関係】 ・運営計画着手 ・企業、市民、関係機関とのネットワークの構築 ・他関連施設との情報交換 ・地域等との調整・連携	【運営計画策定関係】 ・運営全般計画 ・運営マニュアル ・指定管理者等の主体 ・ボランティア育成 ・学校関係者との協議 【手続き関係】 ・条例・規則 ・床取得 ・開設準備行為等	(開館準備) ・運営マニュアル調整 ・人員配置・予算 ・新規採用・研修 ・運営訓練・危機管理 ・イベント ・広報周知 PR 24 年 10 月開館予定
ハード整備	躯体工事着手	・内装・設備工事着手 ・建築依頼工事 ・設備、備品等の確認	・内装工事等完了 ・施設点検・試運転

※ 現段階におけるスケジュールの概要であり、今後の進捗状況等によって前後することも想定されます。

また、開館後も、運営の充実を図る観点で取り組んでいくものとします。

(仮称) こどもクリエイティブブランド基本構想案

静岡市経済局商工部産業政策課

〒424-8701 静岡市清水区旭町6番8号

電話 054-354-2185 fax 054-354-2132

E-mail sangyouseisaku@city.shizuoka.lg.jp